

梅が丘小学校

1. 学校運営協議会の開催

【第1回】学校運営協議会〈令和5年5月26日（木）13時30分～15時30分〉

- ① 学校長挨拶、委員の委嘱
- ② 授業参観
- ③ 学校運営協議会規則について
- ④ 委員の紹介および会長・副会長の選出について
- ⑤ 本年度の学校運営の基本方針について
- ⑥ 熟議「防災訓練の実施に向けて」

【第2回】学校運営協議会〈令和5年11月30日（木）13時50分～16時00分〉

- ① 授業参観
- ② 子どもたちの様子等について（情報共有）
- ③ 教職員全体との熟議「子どもに関わる取組について【CSカレンダー】」

【第3回】学校運営協議会〈令和6年2月15日（木）13時30分～15時30分〉

- ① 授業参観
- ② 本年度の学校運営の成果と課題
- ③ 学校評価について
- ④ 熟議「めざす子ども像の実現に向けて【学校評価】」
- ⑤ 来年度の運営について

2. 名張版コミュニティ・スクール3本柱に係る取組

（1）【学校運営への参画】

- ① 授業参観の後、子どもたちの様子について、意見をいただきました。
- ② 学校の課題を共有し、意見をいただき、理解を得ることで学習支援など地域の協力を得ることができました。
- ③ 学校と地域が協働で行う防災訓練を実施しました。防災訓練に向け、熟議を行い、「子どもたちにどのような力をつけるか」「保護者・地域がどのようにかかわっていくか」についてのアイデア出しと、今後、継続して活動をしていくために地域防災について意見交流をすることができました。
- ④ 熟議で交流した意見を防災訓練の計画に組み込み、学校と地域が連携した防災訓練を実施することができました。



①授業参観



②学校課題の共有



③熟議



④防災訓練

(2)【学校支援の充実】

- ① 読書ボランティア活動による本の読み聞かせ
- ② 地域学校協働カリキュラムの実施、支援（校区探検、キャリア教育、防災教育）
- ③ 昔あそびなどを地域の方々と交流する梅小交流会の実施、支援
- ④ プール学習実施における見守り活動などの支援
- ⑤ 家庭科学習（手縫い、ミシン学習）におけるボランティア支援活動
- ⑥ 授業支援・児童支援にむけた「うめまる先生」プロジェクトの検討



②地域学校協働活動
カリキュラム



③梅小交流会(瑞長会)



⑤家庭科学習支援

(3)【地域貢献の場づくり】

- ① 地域学習に取り組むことにより、地域の人・もの・ことを知り、地域の方の思いについて学ぶことができました。
- ② 子どもたち対象の地域イベント（夏まつり、放課後子ども教室、わいわい広場等）に子どもたちの多くの参加が得られました。
- ③ 学校と地域が協働する形での名張市総合防災訓練を実施することにより、危機対応とともに子どもたちの地域への理解が深まりました。
- ④ 地域学校協働カリキュラム、CS カレンダーの検討を行い、持続可能な活動について整理しました。



① 地域学習



②放課後子ども教室



③防災訓練



④地域学校協働カリ
キュラムについて熟議

3. 成果と課題

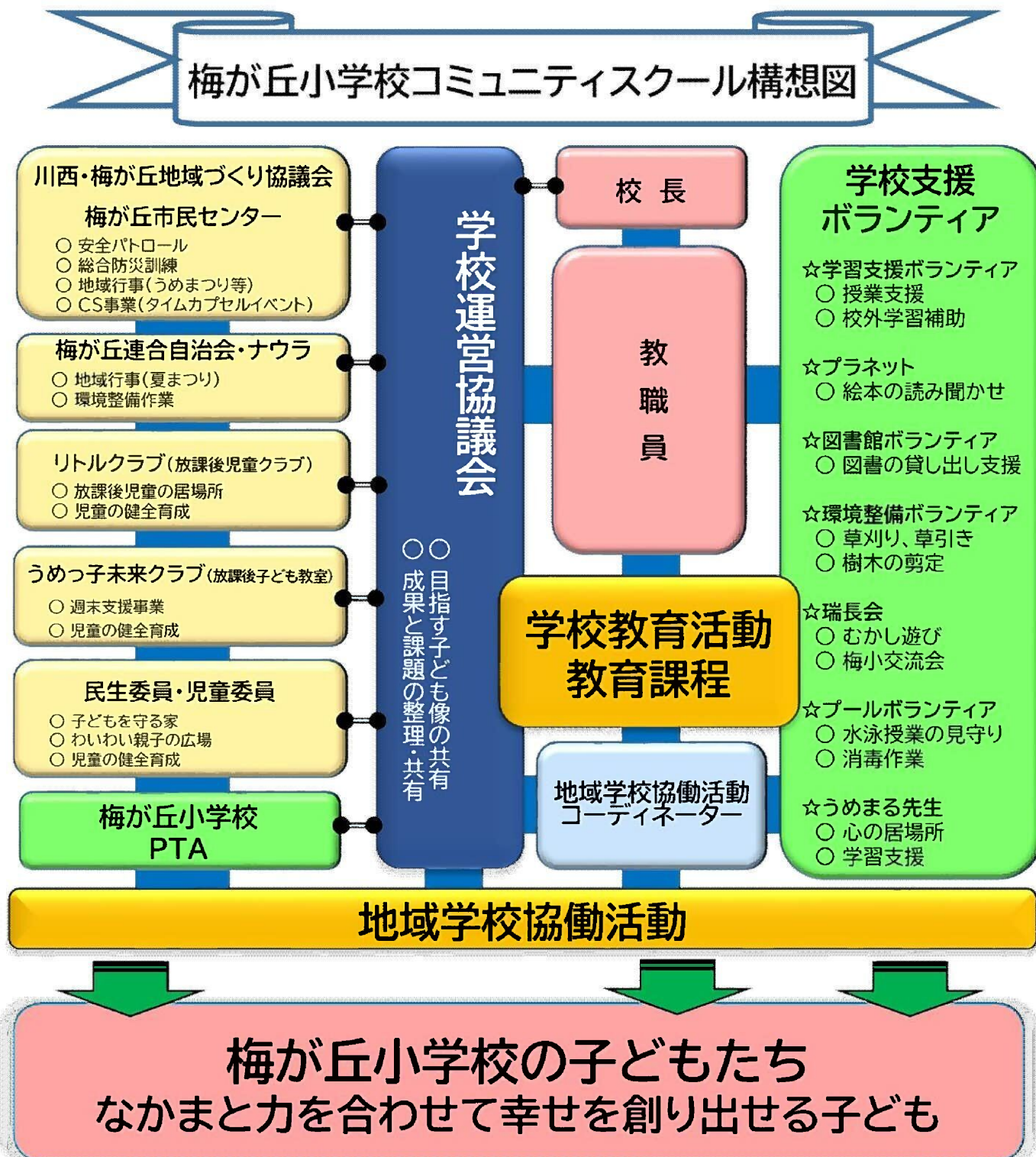
【成果】

- ◇授業参観を行うことで、子どもたちの現状と授業の様子を共有することができ、意見をいただくことができました。
- ◇学校の実情を知っていただき、支援や協力をいただけるようになりました。
- ◇授業支援・児童支援の活動へ理解・協力を得ることができました。
- ◇感染症対応や厳しい気候への対応が必要となる中、プール水泳の見守りなど状況に応じた学校支援をしていただきました。
- ◇地域の人材をゲストティーチャーとして招き、学校と地域が協働して行う地域学校協働カリキュラムやキャリア教育支援を実施することができました。
- ◇防災訓練を実施するにあたり、熟議を通して防災訓練計画を立案し、地域と協働した防災訓練を行うことができました。

【課題】

- ◆学校の様子を積極的に発信するとともに、地域で活動する団体と連携し、さらに活気ある学校運営に向けての取組をしていきたい。
- ◆地域と学校が協働した取組を継続できる仕組みを構築していく必要があります。
- ◆スクール・コミュニティの実現に向け、学校運営協議会や地域コミュニティ理事会の場で思いを共有する取組を続けていきたい。

4. 学校運営協議会の組織図



百合が丘小学校

1. 学校運営協議会の開催

【第1回】学校運営協議会〈令和5年6月8日（木）18時30分～20時00分〉

- ① 委嘱状交付
- ② 名張市学校運営協議会規則について説明
- ③ 委員の紹介及び会長、副会長の選出
- ④ 協議
 - ・学校運営協議会の運営について
 - ・本年度の学校経営方針等について
 - ・小中一貫教育の推進について
 - ・本年度の組織と取組について

【第2回】学校運営協議会〈令和5年11月9日（木）13時30分～15時40分〉

- ① 授業見学
- ② 児童の様子、全国学力・学習状況調査の結果から、人権学習の取組について
- ③ 支援活動の報告

【第3回】学校運営協議会〈令和6年2月15日（木）15時30分～17時30分〉

- ① PTA 人権講演会（5・6年生参加）に参加後、意見交流をする。
- ② 学校評価アンケートについて
- ③ 支援活動の報告

2. 名張版コミュニティ・スクール3本柱に係る取組

（1）【学校運営への参画】

- ① 学校教育目標を説明するとともに、本年度の学校運営の基本方針については若手教員の育成についても意見をいただきました。
- ② 授業の様子を参観していただいた後、現在の児童の様子をふまえ、ご意見をいただきました。その中には、「先生と子どもたちの関係性は非常によいと感じるが、学校に来づらい子に対して、この会を通して子どもの生活が安定できる、安心できるようになっていくとよい」という会としての取組についてのご意見もありました。また、学習支援をしていただいている「ほめほめ隊」の活動については、「どんな支援をしてほしいのかを学校ははっきりと伝えてほしい」というご指摘もいただきました。



①学校運営協議会



②授業参観

（2）【学校支援の充実】

- ① 今年度も引き続きほめほめ隊による学習支援をお願いしました。国語や算数を中心とした学習支援や、図工や家庭科を主とした技能支援、図書ボランティアによる毎

週火曜日（朝）の読み聞かせや毎週水曜日（20分休み）の折り紙教室、下校見守り隊による児童の見守り等も支援をいただきました。また、毎朝あいさつ運動をしていただいている際には、学校駐車場付近の安全確保にも協力いただきました。あわせて、プール監視補助や技能支援補助もしていただき、幅広く支援いただきました。

- ② 校外学習等で、ボランティアの方々に児童の引率支援をしていただいたり、栽培活動では田や畑を耕していただいたり、稲や苗の植え方を教えていただいたりしました。また、開校以来お世話になっているぶどう学習では、本年度も青蓮寺地区の山口繁一さんをお願いさせていただきました。90歳を超えた山口さんから「みんなのために役立つことを一生懸命にしている。」というお話も聞かせていただき、子どもたちも元気をいただくことができました。



①あいさつ運動



①プール監視・技能支援



①ほめほめ隊による学習支援



①読み聞かせ



②まち探検



②稲刈り



②ぶどう学習



②大根の収穫



②さつまいもの収穫

（３）【地域貢献の場づくり】

- ① １１月に田植えや稲刈りでお世話になった地域の方々に対して、５年生が音楽会で発表した合唱を披露し、収穫したお米を渡したり、感謝の気持ちを伝えたりしました。地域の方から、「しんどい米づくりをもうやめようかと思ったが、米作りを続ける元気をみんなからもらった。また、来年もがんばる。」と話をしていただき、「今度は、私たちもボランティアさんのように誰かの力になっていきたい。」という感想を持った子どももいました。
- ② １・２年生は苗植えからお世話になったさつまいもの収穫パーティーへボランティアさんを招待しました。１・２年生と一緒に蒸しパンを作り、ボランティアさんからは「昨年まではコロナでこんなパーティーはできなかったの、今年は楽しくできてよかった。」というお話をいただきました。



②さつまいもパーティー

3. 成果と課題

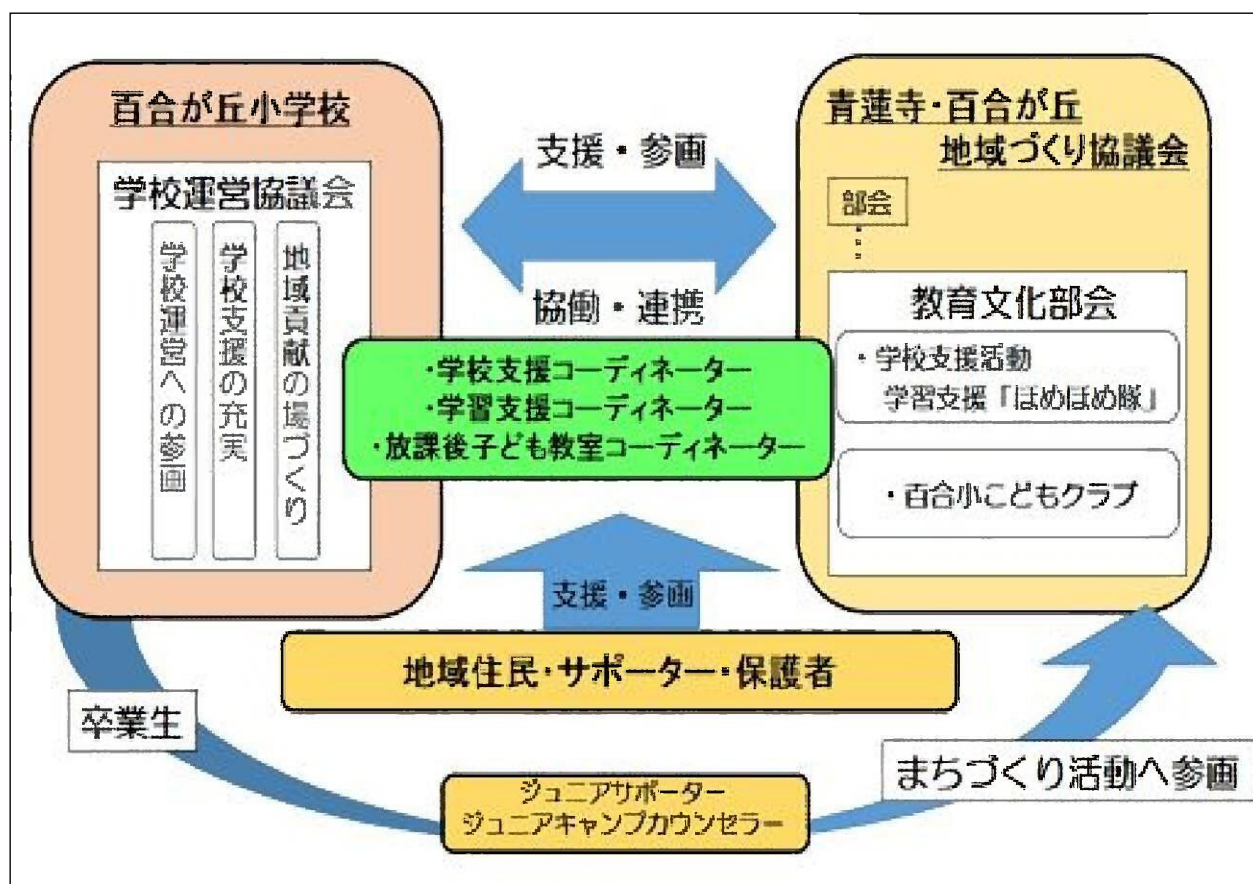
【成果】

◇第1回目の学校運営協議会において、子どもたちの基礎学力の積み上げに不安がある実態があることから、低学年のたし算、ひき算、かけ算などの補充学習をしたらどうかという意見が出されました。そこで、2学期の途中から「こつこつ計算ランド」という名前で火曜日と木曜日の20分休みに実施していただくことになりました。子どもたちは、確認の時間として列を作って並ぶくらい、楽しみにしている様子をうかがうことができました。

【課題】

◆学校支援を長年続けていただけていますが、コロナ禍で活動が停止していた期間があったことから、学校とボランティアの方との間で、意思疎通が十分にできなくなっていることが明らかになってきました。そこで、学校はボランティアの方々に何のためにどのような支援をしていただきたいのか、また、そのためにボランティアの方には教室でどのような心構えで子どもたちと接することが望ましいのかなどについて、両者が再確認をする必要があることが分かってきました。この課題に関して学校では、早速、職員会議等を通じて情報共有し、学校とボランティアをはじめとする地域の方とが同じ方向性を持って、子どもと接することができるよう取り組みを進めています。

4. 学校運営協議会の組織図



名張中学校

1. 学校運営協議会の開催

年間計画を作成し、活動しました。

R5名張市立名張中学校 CS 年間計画表

項 目・内 容	教員後子版	名張市総合防災訓練と連携した避難訓練	学 校 行 事	
4月			始業式・入学式	
5月	第1回CS会議 (29日15:30~) ① 委員の役割について ② 学校運営協議会名義について ③ 委員紹介、会長・副会長選出 ④ 学校の様子、昨年度CSの取組について ⑤ 学校経営方針及び学校経営計画の承認について ⑥ 本年度の活動について ⑦ その他	《昨年度からの申し送り・課題》 ○昨年度ボランティアに引き続き依頼していく。 ○補充学習だけでなく各場所作りの活動をどのように入れていくか。→2階学習室を不登校気味の生徒などの居場所作りの場所として活用 ○各場所作りの活動内容の検討 ○仮面王座敷 協議スタート ○教室の整備	《昨年度からの申し送り・課題》 ○地域を巻き込んだ活動内容の充実 ○防災訓練当日の避難経路がでない生徒や驚かない生徒の安心確保 ○地域の11月18日の防災訓練の計画の承認 ○避難訓練後当該地区生徒の把握。 ○地域の中で中学生が貢献できる自身の検討 ○まちづくりの代表との協議を重ねて、できる事を検討 協議スタート	中間テスト 全国学力・学習状況調査 名張市総合体育大会
6月	教員後子版 テスト期間を利用し、集中して学習支援を行う(3日授業)		体育祭 期末テスト 修学旅行(3年)	
7月			授業式 中体連伊賀大会・三重県大会	
8月			授業式	
9月	第2回CS会議(後日連絡) ① 名張市総合防災訓練と連携した避難訓練について ② その他 教員後子版 本修実録	2週目より実施	文化祭 中間テスト	
10月			期末テスト 避難訓練	
11月	名張市総合防災訓練と連携した避難訓練(18日) 《目的》 ○生徒が地域の避難場所に行くことにより、避難場所を認識するだけでなく、その地域の方々と交流を行う。 ○中学生を災害時に活躍できる人材へと育てる。 《内容》 ○出席を認識する。 ○避難活動等を地域の方と行う。また、地域の歴史等の共有を行う。	11月18日実施	卒業式 修了式 三重県立高校前期選抜	
12月			卒業式	
1月			卒業式	
2月	第3回CS会議(後日連絡) ① 本年度の実施結果及び成果と課題 ② 学校自己評価について ③ 来年度に向けて ④ その他		学年末テスト 三重県立高校前期選抜	
3月			卒業式 修了式 三重県立高校後期選抜	

(第1回学校運営協議会、支援ボランティア担当者会・研修会の様子)

2. 名張版コミュニティ・スクール3本柱に係る取組

(1)【学校運営への参画】



学校経営計画の確認と意見交流

第1回学校運営協議会では、紙による資料だけでなくICTを活用し、名張中学校の様子や昨年度のCSの取組を紹介し、本年度の学校運営の基本方針や学校経営計画を確認しました。また、本校でも課題となっている不登校生徒への支援について、学校運営協議会と

してできる支援の在り方について活発に協議いただきました。様々なご意見をいただく中で、学校運営協議会委員を中心に、支援をいただくボランティアの方を対象とした研修会を持つことが提案され、8月に「不登校生徒理解について」というテーマでさくら教室より講師を招いて実施することができました。あわせて、昨年度から継続して実施している学習支援としての取組も、さらに充実させることはできないかなどについても、ご協議いただきました。2回目以降の学校運営協議会でも、学校運営協議会としてこういった取り組みができるか、互いに知恵を出し合おうと大変活発な協議が行われ、学校運営への参画意識の高まりを感じることができています。

名張中学校 学校経営 グランドデザイン



(2)【学校支援の充実】

＜名張中学校寺子屋＞

【学校運営への参画】の項にもある通り、今年度は名張中学校寺子屋として、学習支援を中心とする取組と不登校支援としての取組を、並行して実施し始めました。いずれも、教育課程外となる放課後において、可能な範囲で、学校運営協議会委員の皆さんや支援ボランティアなど地域の方々のお力をお借りし、生徒の学びや居場所づくりの支援をしていただくことで、めざす学校像である「どの子も生き生きと輝く学校」「なにげない毎日が幸せとすることができる学校」の実現をめざしました。具体的には、今年度は月2回程度、寺子屋支援ボランティアの皆さんに参加していただき、テスト期間に学習支援を中心とする寺子屋を行いました。また、不登校支援の取組の一つとして8月に実施した研修会では、学校運営協議会委員と支援ボランティア担当者が参加し、全国や名張市における不登校生徒の現状を知ると共に、そうした状況にある子どもたちに向き合う際の心構え等、不登校生徒理解を図ることで、具体的な支援に繋げる一歩とすることができました。実際に2学期から生徒支援の教室（インフィニティルーム）にて支援ボランティア担当者と学校運営協議会委員が、欠席しがちな生徒と一緒に教室の飾りを作成するなど、交流を持つことができました。

＜活動内容＞

- ① 補充学習として、放課後、本校図書室において学習等の支援を行う（学習意欲のある生徒や教科の学習を苦手としている生徒への支援）
- ② 学習支援だけではなく、図書室において可能な限り生徒の思いや悩み等を聞くなどして、生徒の居場所づくりの支援をする。
- ③ 不登校支援として、欠席しがちな生徒と交流を持ち、生徒の居場所づくりの支援をする。



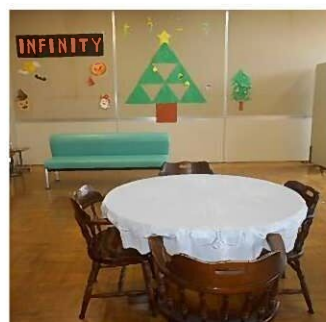
寺子屋（学習支援）



支援ボランティア担当者会・研修会



寺子屋（生徒支援）



インフィニティルーム

(3)【地域貢献の場づくり】

〈在宅時での災害を仮定した防災訓練について〉

① 日 時 令和5年11月18日(土)

② 目 的

- ・ 生徒自らが、災害時に避難する一時避難場所や市が指定する避難場所を確認する。
- ・ 生徒が、予測不能な災害に対し、自分の身を守るだけでなく、地域の一員として自分の安全を確保したうえで、災害時に積極的に活躍できる人材になることの大切さを知る。
- ・ 防災教育の中で、災害時に地域の一員として地域に貢献できる人材を育成する一歩とする。
- ・ 学校側が、生徒の登校前や下校後の災害時に生徒の安否確認をする資料を作成する。

③ 活動内容

①地震発生 ・自分の身の安全を確保する。

②一時避難場所に移動

- ・ 倒れてくる壁などを想定しながら移動する。
- ・ 地域の方に出会った時には挨拶をする。
- ・ タブレットを必ず持参し、自然災害が起こったときに自宅や避難経路で危険だと思われる場所や一時避難場所の写真撮影をする。

③市指定避難所に移動

- ・ 避難経路で危険だと思われる場所の写真撮影をする。
- ・ 市指定避難場所である名張中学校の担当教員から出欠確認を受ける。
- ・ 市指定避難場所の写真撮影をする。

④ワークシート等作成

- ・ ワークシート①を仕上げ、11月18日(土)の12時までに、ロイロノートで、学校に提出する。
- ・ 防災ビデオを視聴し、ワークシート②に取り組み、提出する。
- ・ 防災新聞を生徒一人一人が作成し、学校へ提出する。

3. 地域への啓発

- ・ 校区にある4つの市民センターに、作成した防災新聞の掲示を依頼。
- ・ 市の危機管理室にも、訓練のワークシートや感想及び防災新聞を情報提供。



応急担架訓練



応急担架訓練



傷病者体位訓練



市指定避難場所の撮影

4. 成果と課題

【成果】

〈学校経営〉

- ・ 今年度は体育祭、文化発表会、各学年の合唱コンクールなど名張中学校全体の様子や生徒の様子を保護者参観できるようにしたり、授業参観を開催して保護者に子どもたちの様子をみていただいたり、運営協議会の意見も聞きながら進めることができました。
- ・ 近年不登校生が増加していることについて、名張中学校で生徒たちの居場所づくりができないか熟議し、具体的な取組に繋げることができました。
- ・ 第2回の運営協議会において、全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェック等の結果についても話題に出し、運営協議会での支援の在り方について協議いただきました。単年度で解決が図られる課題ではなく、今後も継続した取組が必要であると捉えています。このような協議を踏まえ、来年度に活動を引継ぎ、スムーズにスタートが切れるようにしていきたいです。

〈学校支援・寺子屋〉

- ・ 教科の学習を苦手としている生徒や課題解決への意欲のある生徒に対して支援を行うことができました。また、テスト期間には集中的に支援の日程を入れ、充実した学習支援ができました。特にテスト期間中の寺子屋は、生徒のニーズもあり、多くの生徒が参加する様子が見られました。
- ・ 運営協議会委員や支援ボランティア担当者が生徒とかかわる内容・活動があり、生徒と交流する場面を設けることができ、繋がりを深めるきっかけとなりました。

〈地域貢献・防災訓練〉

- ・ 昨年度の反省を踏まえ、出欠確認の方法について子どもたちと再確認するなど事前の声掛けを十分に行うことで、出欠確認をスムーズに行うことができました。各地域に分かれての避難訓練は地域との協働した取組であり、子どもたち一人一人と地域の方との交流が深まりました。このような地道な取組が開かれた学校づくりに繋がると考えています。
- ・ 子どもたちが、防災についての意識を高めたり、地域の防災について考えたりできる機会となりました。また子どもたちが作成した防災新聞を名張市民センターに掲示することを通じて、地域における危険箇所などの発信につなげ、防災意識を地域へ啓発することができました。さらには、市の危機管理室にも学習の成果物を提出し、情報共有を行うことで、行政機関とも連携を図ることができました。
- ・ 子どもたちが今住んでいる地域の防災について知ることは、これから起こる可能性のある地震に備える上で、大変有意義だと考えます。子どもたちの日常は、学校で過ごす時間よりも、地域で過ごす時間の方が長くなります。子どもたちの防災意識の醸成とともに地域での防災訓練は非常に大切であると考えます。

【課題】

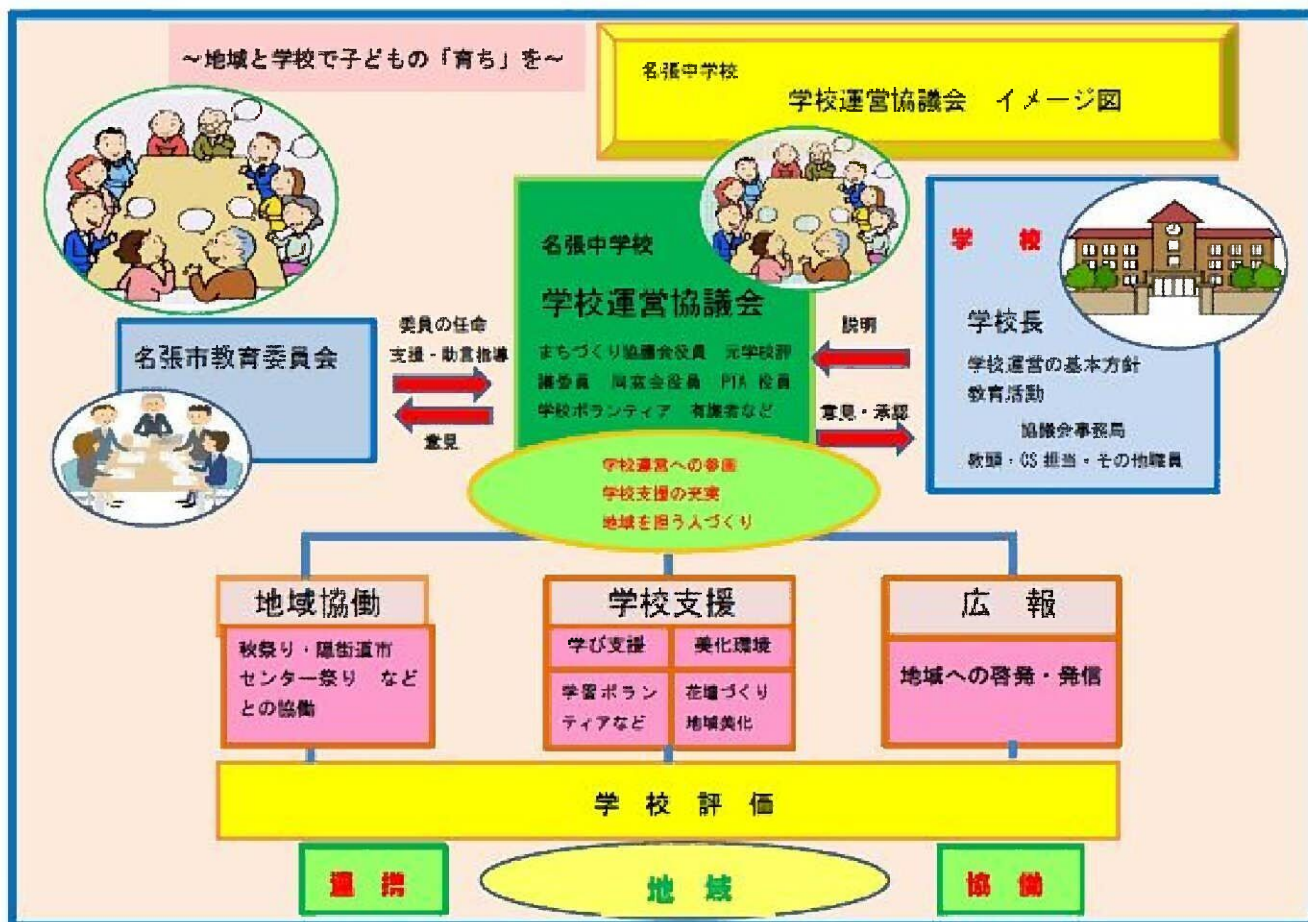
〈学校支援・寺子屋〉

- ・ 学習支援については、テスト期間は多くの生徒が利用しますが、それ以外の設定日については同じ時間帯に部活動も行われており、利用者数としては、それほど多くはありませんでした。生徒支援についても同様で、参加者がいないこともありました。不登校生徒の状況は一人一人全く異なっておりデリケートな部分でもあるため、常に子どもたちに寄り添う姿勢を最優先に、担任、保護者と連携しながら進めていく必要があります。

〈地域貢献・防災訓練〉

- ・ 参加する子どもたちの人数の問題もあり、各地域による防災訓練の内容について検討をしていく必要があります。

5. 学校運営協議会の組織図



赤目中学校

1. 学校運営協議会の開催

【第1回】学校運営協議会〈令和5年5月25日（木）18時30分～20時〉

① 学校運営協議会について

- ・名張市学校運営協議会規則説明
- ・名張市学校運営協議会規則説明
- ・委員の紹介及び会長、副会長の選出
- ・学校運営協議会の運営と組織について
- ・各種担当について
- ・各地区行事等への中学生の参画
中学生作品の市民センター等への展示
名張市防災訓練（11月18日）での中学生の地域防災組織への参画
各地域行事の情報交流（中学生の参画方法の検討）

【第2回】学校運営協議会〈令和5年6月27日（火）16時～17時30分〉

① 中学生との意見交流

- ・テーマ「中学生が自分たちの住む地域に望むこと」
地域清掃活動への参加機会を増やしたい
通学路等の道路整備をお願いしたい
地域イベントへの参加
勉強会（居場所）ができるようにしていきたい

② 地域への広報について（作品展示）

③ 地域防災訓練について

④ 各地区行事等への中学生の参画

【第3回】学校運営協議会〈令和5年7月11日（火）18時30分～20時30分〉

① 各地域清掃活動への中学生等の参加（情報共有）

② 各地域勉強会について

- ・赤目地区：市の事業補助を受け市民センター1室を使い、毎週、水、金曜に実施
18：00～小学生、19：00～中1、20：00～中3
大学生が講師
- ・各地区：検討し、ある期間（テスト前、夏季休業等）実施のめどが立った時点で中学生にアナウンスしていく

【第4回】学校運営協議会〈令和5年10月3日（火）18時30分～20時30分〉

① 防災訓練 令和5年11月18日（土）9：00～

- ・当日の日程確認

錦生地区：一時避難場所に集合→錦生市民センターへ移動→土嚢作り・非常食炊き出し

赤目地区：一時避難場所に集合→錦生赤目小学校へ移動→防災訓練

箕曲地区：避難場所に集合→箕曲小学校に移動→防災訓練

百合が丘・青蓮寺地区：一時避難場所に集合→各避難場所にて防災訓練

② 作品展示及び勉強会等の反省

- ・「なばり学」の課題（レポート）の展示について、各地域の方から高評価をいただき、各地域文化祭や地域フェスティバルにも展示していく。

- ・勉強会（居場所づくり）の実施
百合が丘地区：夏休み中計7日間、のべ20人強の利用。講師は大学生5～6人今後、学習をする場所の提供、自習のサポートをしていけるような取組にしていきたい。
- ③ 各地区行事等への中学生の参画（各地域行事の情報交流）
 - ・錦生地区：文化祭（12月）、作品展示
 - ・赤目地区：赤目夏祭り、赤目フェスティバル…中学生がスタッフとして参画。
赤目市民センターまつり…作品展示
 - ・箕曲地区：箕曲まつり…作品展示
 - ・青蓮寺・百合が丘地区：11月4日地域フェスティバルへの参画



【第5回】学校運営協議会〈令和5年12月12日（火）18時30分～20時30分〉

① 地域防災訓練への中学生の参加について（今年度反省）

- ・令和5年11月18日（土）事後反省
 - 【錦生地区】計画通り実施
 - 【赤目地区】計画通り実施
 - 【箕曲地区】計画通り実施
 - 【青蓮寺・百合が丘地区】計画通り実施



- ② 3学期に向けて
各市民センター等へ中学生作品展示
- ③ 学校評価について

【第6回】学校運営協議会〈令和6年2月21日（火）19時～21時〉

- ① 今年度の活動について（反省）
- ② 学校評価について
- ③ 次年度に向けて

2. 名張版コミュニティ・スクール3本柱に係る取組

(1)【学校運営への参画】

- ① 学校運営協議会委員から、中学生につけたい力についてご意見をいただき、めざす中学生の姿を共有しました。
- ② 学校課題について共有し、解決策についてご意見をいただきました。

(2)【学校支援の充実】

- ① 学校運営協議会からの発信により、登下校の見守りや、部活動支援（外部指導者）を行っていただきました。
- ② 学校運営協議会として各地域の催しや取組に対し学校(中学生)が積極的に参画し、連携を深めていっている。

(3)【地域貢献の場づくり】

- ① 学校だよりの地域回覧を継続して取り組みました。
- ② 地域行事の情報交流を運営協議会で行い、中学生が積極的に参加していけるようにしました。
- ③ 各市民センター等において本校生徒の作品展示を行い、地域の方々へ中学生の理解を広く行いました。
- ④ 地域の方とともに地域清掃活動を行い、地域の一員としての意識の高揚を図りました。
- ⑤ 地域行事に中学生が企画、準備から携わり、スタッフとして参画しました。
- ⑥ 学校に掲示板を設置し、地域からの情報を中学生に知らせられるようにしました。

3. 成果と課題

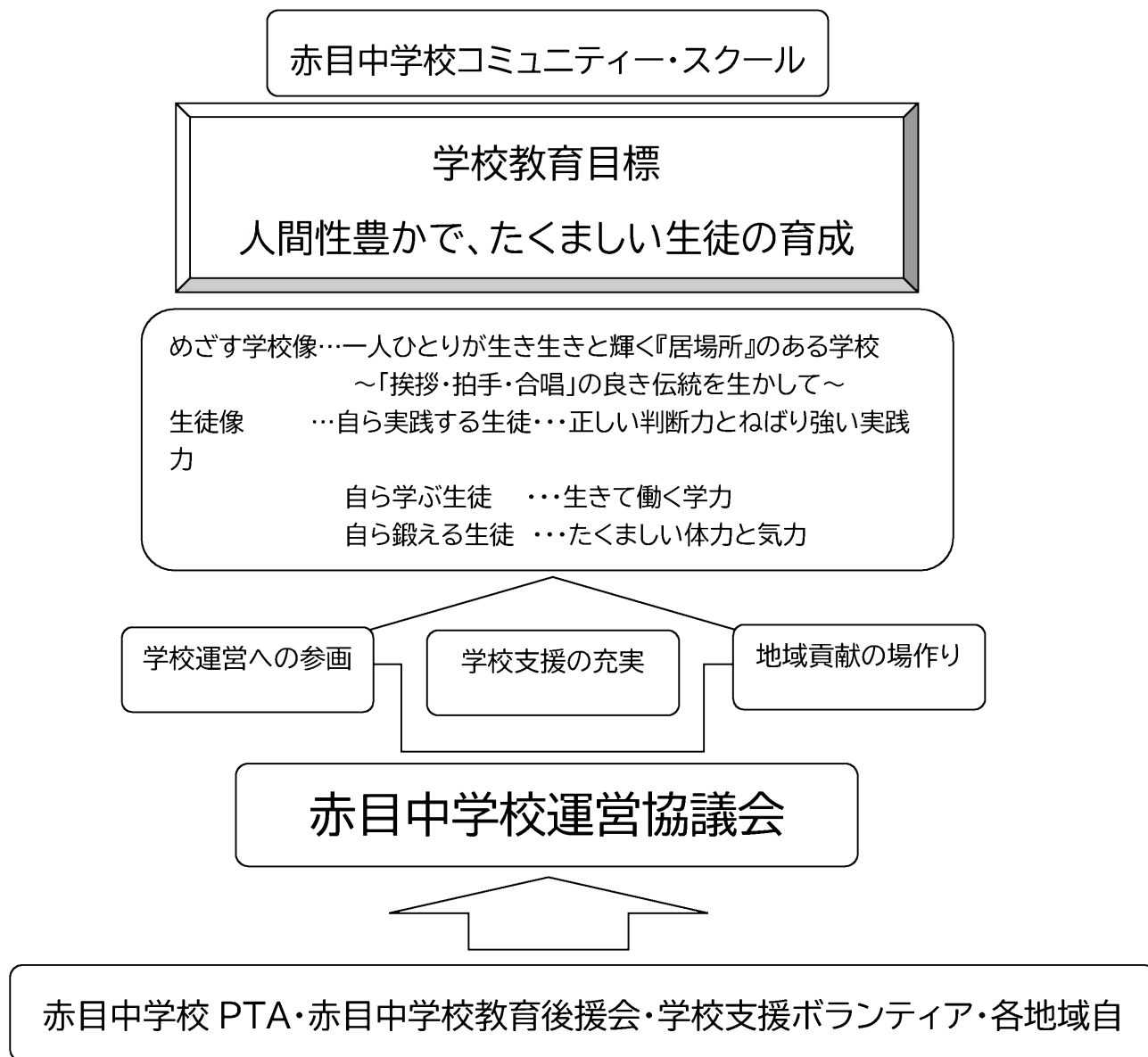
【成果】

◇学校の情報を運営協議会で共有し、地域会議での発信や学校からの通信、ホームページ等で情報発信すること、そして中学生が積極的に地域行事に参画する機会が増えました。このような取組から、生徒自身の地域社会の一員としての意識が培われ、地域への愛着と地域の担い手としての自覚を持つきっかけとなりました。また、作品展示や防災訓練等、中学校が地域に関わることで、地域活動の活性化につながりました。子どもたちにとっては学びの充実とともに、自己肯定感や豊かな心が育まれ、主体的に行動する力の基礎とすることができました。

【課題】

◆地域の方から、ICTの活用やキャリア教育、様々なアイデアや学習資源の提案をいただく機会が増え、学校運営に積極的に参画していただけるようになりましたが、発達段階や学習内容等に応じ、具体的な取組の実現につなげるには、様々な調整が必要となります。時間や人材、方法などをタイムリーに調整出来るような、コーディネーター委員会等のシステムを構築していくことが必要です。地域とともに学習を推進し、地域からさらに信頼されるように、今後も取組を発展させていきたいと考えています。

4. 学校運営協議会の組織図



桔梗が丘中学校

1. 学校運営協議会の開催

【第1回】学校運営協議会〈令和5年6月15日（木）13時30分～15時30分〉

- ① 学校見学
- ② 名張市学校運営協議会規則について
- ③ 委員紹介および会長・副会長の選出
- ④ 令和5年度学校運営の基本方針について
- ⑤ 小中一貫教育の進捗状況について
- ⑥ 学校のようにについて
- ⑦ 令和5年度名張市防災訓練について
- ⑧ 各地区における具体的な行事の取組について



学校運営協議会

【第2回】学校運営協議会〈令和5年10月19日（木）13時～15時〉

- ① 学校のように課題について
- ② 11月18日（土）地域防災訓練について
- ③ 桔梗祭り・蔵持市民センター祭との連携について

【第3回】学校運営協議会〈令和6年2月29日（木）13時30分～15時30分〉

- ① 令和5年度学校運営の成果と課題について
- ② 令和5年度の取り組みの成果と報告
- ③ 令和5年度 学校運営協議会評価書について

2. 名張版コミュニティ・スクール3本柱に係る取組

（1）【学校運営への参画】

- ① 学校課題について共有し、取組についての意見をいただきました。
- ② 学校評価について協議いただきました。

（2）【学校支援の充実】

- ① 登下校時の交通安全ボランティアでは交差点やT字路に立っていただき、生徒が安心・安全に登下校できるサポートをしていただいた。その他にも、挨拶ボランティアやボランティア女性保護司さん、図書ボランティアの皆さんにご協力いただきました。
- ② 第一回学校運営協議会や11月10日（金）に行われた名張市教育委員会指定研究発表会、オープンスクールにおいて、桔梗が丘中学校の学校運営協議会の委員さんや校区小学校の運営協議会の委員さんに授業のようすを見学していただいた。
- ③ 部活動支援として、茶道部で2名、手話サークルで5名の方にご協力いただいています。



②オープンスクールのようす



③部活動支援

(3)【地域貢献の場づくり】

- ① 桔梗祭りや蔵持市民センター祭との連携により、本校より桔梗祭りには5名、蔵持市民センター祭には3名の生徒がボランティアとして活動を行いました。あわせて、茶道部や音楽部も出演し、お茶の振舞いやコンサートを行い、地域との交流を深めるとともに、地域の一員としての意識の醸成を図りました。
- ② 地域の自治会と協働し、防災訓練を地域の皆さんと一緒に実施しました。



②防災訓練

3. 成果と課題

【成果】

- ◇昨年から続けて熟議してきた「桔梗が丘中学校の特色ある行事や取組」について、桔梗祭りと蔵持市民センター祭に企画・運営ボランティアや音楽部が参画することができました。
- ◇防災訓練を地域の自治会と協働しながら実施することができました。
- ◇登下校での交通安全において、地域と皆さんに生徒の様子を見ていただくことで、安全・安心に過ごす環境づくりにつなげることができました。
- ◇学校に来ていただく機会を昨年よりも多く設けることで、生徒や学校の様子をより近いところから見ていただくことができました。

【課題】

- ◆学校運営協議会の中では、学校からの報告が多くなりがちで、委員の方からの意見をうかがう場面が少ない傾向があります。
- ◆上記にもある通り、桔梗祭りや蔵持市民センター祭への生徒のボランティア参加が見られましたが、参加者数としては、まだまだ少ないのが現状です。今後も地域の取組に関する情報提供を継続して行い、地域と生徒との関わりを密接にしていくことで、生徒一人一人も地域の一員であるという意識の醸成につなげていきたい。

4. 学校運営協議会の組織図



北中学校

1. 学校運営協議会の開催

北中校区学校運営協議会連絡会〈令和5年4月27日（木）10時～11時〉

北中校区4校の学校運営協議会会長と学校長による連絡会を実施し、各運営協議会の取組の共有化と今年度の方向性を確認しました。



北中校区学校運営協議会連絡会

【第1回】学校運営協議会部会長会議〈令和5年5月19日（金）10時～11時〉

第1回学校運営協議会にかかる各部会の提案内容の確認と取組の方向性の共有化

【第1回】学校運営協議会〈令和5年6月2日（金）9時45分～12時〉

- ① 学校運営協議会委員による授業参観
- ② 委員の委嘱と名張市「学校運営協議会規則」について
- ③ 委員紹介、会長・副会長選出 各部会長の承認
- ④ 本年度の学校経営方針及び学校経営計画の承認について
- ⑤ 校区内4校での学校運営協議会連絡会での協議内容の報告について
- ⑥ 小中一貫教育にかかわる進捗状況について
- ⑦ 各部会（学校運営部会・学校支援部会・地域連携部会）の取組について
- ⑧ 各部会による協議と全体共有



①学校運営協議会

【第2回】学校運営協議会部会長会議〈令和5年10月30日（月）10時～11時〉

第2回学校運営協議会にかかる各部会の提案内容の確認と取組内容の共有化

【第2回】学校運営協議会〈令和5年11月10日（金）10時～11時30分〉

- ① 学校生活にかかわる生徒の様子について
- ② 各部会（学校運営部会・学校支援部会・地域連携部会）の取組報告
- ③ 各部会での協議、下半期の具体的な取組の確認、全体共有

【第3回】学校運営協議会部会長会議〈令和6年1月22日（月）10時～11時〉

第2回学校運営協議会にかかる各部会の提案内容の確認と取組内容の共有化

【第3回】学校運営協議会〈令和6年2月8日（木）10時～11時30分〉

- ① 本年度の実施結果及び成果と課題
- ② 学校自己評価について
- ③ 来年度に向けて

2. 名張版コミュニティ・スクール3本柱に係る取組

（1）【学校運営への参画】

- ① 学校運営（基本方針等）の承認
- ② 生徒の地域参加についての熟議
- ③ 各部会での取組

- ・学校運営部会
外部評価、校区内小学校の学校運営協議会との連携
- ・学校支援部会
環境美化、通学路の安全点検、学習支援・部活動支援
- ・地域連携部会
地域防災活動への生徒参加支援、各まちづくり組織との連携

④ 学校運営部会を中心に「学校評価」についての協議を行いとりまとめる

(2)【学校支援の充実】

① 学習支援

- ・夏季休業中の学習のサポート 8月23日(水)～25日(金)
学校支援部会を中心に計画していただいています。毎回多くの生徒が参加し、基礎学力の向上だけでなく、「夏休みの課題」を完成させ不安なく新学期を迎えることにつながりました。和気あいあいとした雰囲気、学習の支援だけでなく、地域の方との交流の場にもなっています。2月の学年末テスト前にも学習サポート会を予定しています。
- ・家庭科の授業の中でのミシン作業のサポート
- ・1年生の朝の読書の時間における絵本の読み聞かせ



①夏季休業中の学習サポート



①ミシンのサポート



①絵本の読み聞かせ

② 環境整備

- ・中庭の整備 8月20日(日)
PTAのOBやOGを中心に学校支援のために結成されている「北斗会」の方々により、中庭の整備及びベンチの作製をしていただきました。
- ・自転車のパンク修理
生徒の自転車がパンクした際には、学校支援ボランティアさんがすぐに駆け付け、自転車の修理をしていただきました。
- ・校庭の草抜き
毎週、テニスコート周辺を中心に整備をしていただきました。



②中庭の整備



②ベンチの作製



②パンク修理



②校庭の草抜き

(3)【地域貢献の場づくり】

① 古谷部長と生徒会本部役員との懇談会

「災害時に中学生としてできること」をテーマに、昼休みの時間を使って生徒会本部役員7名と古谷部長が2回の懇談会をもちました。その様子はオンラインシステムzoomを活用し、全校生徒で防災学習を行いました。生徒たちにとっては、災害

時に地域の一員として何ができるかを考える機会となりました。

② 名張市防災訓練に向けた打ち合わせ 11月7日（火）

地域の「総務班」「物資班」「救護班」「衛星班」の4つの班の班長さんと参加する生徒25名が、避難所開設訓練の運営について事前の打ち合わせをおこないました。当日の流れや動き役割分担など、参加生徒は地域の方と共に確認することができました。

③ 地域防災活動への生徒参加

11月18日（土）に実施された名張市総合防災訓練では、避難所運営委員会と共に生徒代表者25名（生徒会本部役員・各学級代表）が参加し、それぞれの役割で開設・運営の体験をしました。昨年度より参加生徒数や分担内容も増え、参加した生徒はより主体的に取り組む姿が見られました。訓練終了後、参加した生徒は振り返りをおこない、午後の授業で各学級の生徒に還流をしました。また、訓練時の動画を見て、全校生徒で防災学習を行いました。生徒たちにとっては、災害時に地域の一員として何ができるかを考える機会となりました。



① 古谷部長との
懇談会



② 地域の方との
打ち合わせ



③ 避難所開設訓練



④ まちづくり主催行事への参加

- ・美旗秋祭りでのウインドアンサンブル部の演奏 10月14日（土）
- ・薦原コモコモ祭りでの美術部の作品展示 11月5日（日）



④ 美旗秋祭り



④ 薦原コモコモ祭り

3. 成果と課題

【成果】

◇学校運営協議会が設置されてから4年目を迎え、名張版コミュニティ・スクール3本の柱に関わる取組も年々充実をしてきています。学校の現状、運営の方針を理解いただけたことにより、成果だけでなく課題となっている事にも多様な視点から示唆や支援をいただくことができています。

◇本校の学校運営協議会の特色である3つの部会（学校運営部会、学校支援部会、地域連携部会）のメンバーが、必要に応じて話し合いをもち、必要な支援や具体的な取組を実施することができています。特に学習支援部会により夏季休業中に実施した学習会では、基礎学力の向上だけでなく、新学期を迎えるにあたり、課題が完成せず不安を持つ生徒が少なからずいる中、多くの生徒が参加し不安を払拭し新学期を迎えることにもつながりました。

◇校区内各小学校の学校運営協議会との連携も必要であることを踏まえ、年度当初に北中

校区4校の各運営協議会会長と学校長が集まり、北中校区学校運営協議会連絡会を開催することができました。

◇本年度は、市の総合防災訓練時に、生徒が各地域の一時避難場所に避難し安否確認を行い、その後学校へ登校しました。全ての生徒が一時避難場所を知ることができたことは、地域と協働した避難行動を実践する上で大変有意義であったと考えています。

【課題】

◆本年度初めて、生徒が各地域の一時避難所に避難し安否確認をする活動を行いました。事前に各まちづくり協議会の会長や区長さんとも連携をとりながら取組を進めましたが、各地域の地域性や特色があり、一律に活動することの難しさがありました。訓練の意図を学校と地域が共有し、今後も同じ方向性を持って行動していけるよう、連携を密にしていく必要があります。

4. 学校運営協議会の組織図



南中学校区（つつじが丘小学校・南中学校）

1. 学校運営協議会の開催

【第1回】学校運営協議会〈令和5年6月1日（木）10時～12時〉

会場:南中学校

- ① 授業参観
- ② 挨拶（南中学校長より・運営協議会会長より）
- ③ 運営協議委員の自己紹介・協議会規則等の確認
- ④ 子どもの様子（授業参観の様子から）、普段の様子（学校から）
- ⑤ プログラミング教育について
- ⑥ 人権講演会・文化発表会について
- ⑦ 地域防災訓練参加について

【第2回】学校運営協議会〈令和5年11月1日（水）10時～12時〉

会場：つつじが丘小学校

- ① 授業参観
- ② 挨拶（つつじが丘小学校長より・運営協議会会長より）
- ③ 子どもの様子（授業参観の様子から）、普段の様子（学校から）
- ④ プログラミング教育について
- ⑤ 国際交流イベントについて
- ⑥ 人権講演会・文化発表会について
- ⑦ 地域防災訓練参加について
- ⑧ つつじっ子会議について

【第3回】学校運営協議会〈令和6年2月7日（水）10時～12時〉

会場:南中学校

- ① 授業参観
- ② 挨拶（南中学校長より・運営協議会会長より）
- ③ 子どもの様子（授業参観の様子から）、普段の様子（学校から）
- ④ 小中一貫教育に関わるアンケート
- ⑤ 学校評価（各学校より）
- ⑥ 本年度の取組の反省と課題について
- ⑦ 学校評価書

2. 名張版コミュニティ・スクール3本柱に係る取組

（1）【学校運営への参画】

- ① 基本方針等の説明をし、承認をいただき、確認を行いました。
- ② 学校課題についての協議を行い、今後の方向性を話し合うことができました。
（子どもの様子について、授業について、プログラミング教育、交通安全等について、
学校施設トイレについて）
- ③ 学校評価について協議いただき、「学校評価書」としてまとめました。



②運営協議会議より（全体協議）



②運営協議会議より（授業参観）



②中1 プログラミング教育

②小6 プログラミング教育



②中1 防災講話

②拡大つつじっ子会議

(2)【学校支援の充実】

- ① 小中一貫教育への支援をいただきました。
- ② ふれあい隊による清掃支援や更生保護女性会によるあいさつ運動の協力をいただきました。
- ③ クラブ・部活動への支援をいただきました。
- ④ 小学校の遊具のペンキ塗り等の環境整備をしていただいた。
- ⑤ 図書館整備等の支援をいただいた。
- ⑥ 紙芝居を行っていただきました。
- ⑦ 折り紙教室を行っていただきました。
- ⑧ コアラさんによる登校指導及び安全パトロールを行っていただきました。
- ⑨ つつじが丘・春日丘自治連合会の皆さまによる、標語募集の協力をいただきました。



⑨交通標語表彰式（小学校）



⑨あいさつ標語表彰式（中学校）

(3)【地域貢献の場づくり】

- ① つつじっ子会議を実施し、あいさつ運動について話し合いました。
- ② 中学生が学校で、地域のマスコット「えみらる」と朝のあいさつ運動を実施しました。
- ③ 小学生が学校で朝のあいさつ運動をしました。
- ④ つつじが丘・春日丘自治連合会の皆さまによる、地域と協働のあいさつ運動を実施しました。



②あいさつ運動（小学校・小中合同）



②あいさつ運動（中学校）

3. 成果と課題

【成果】

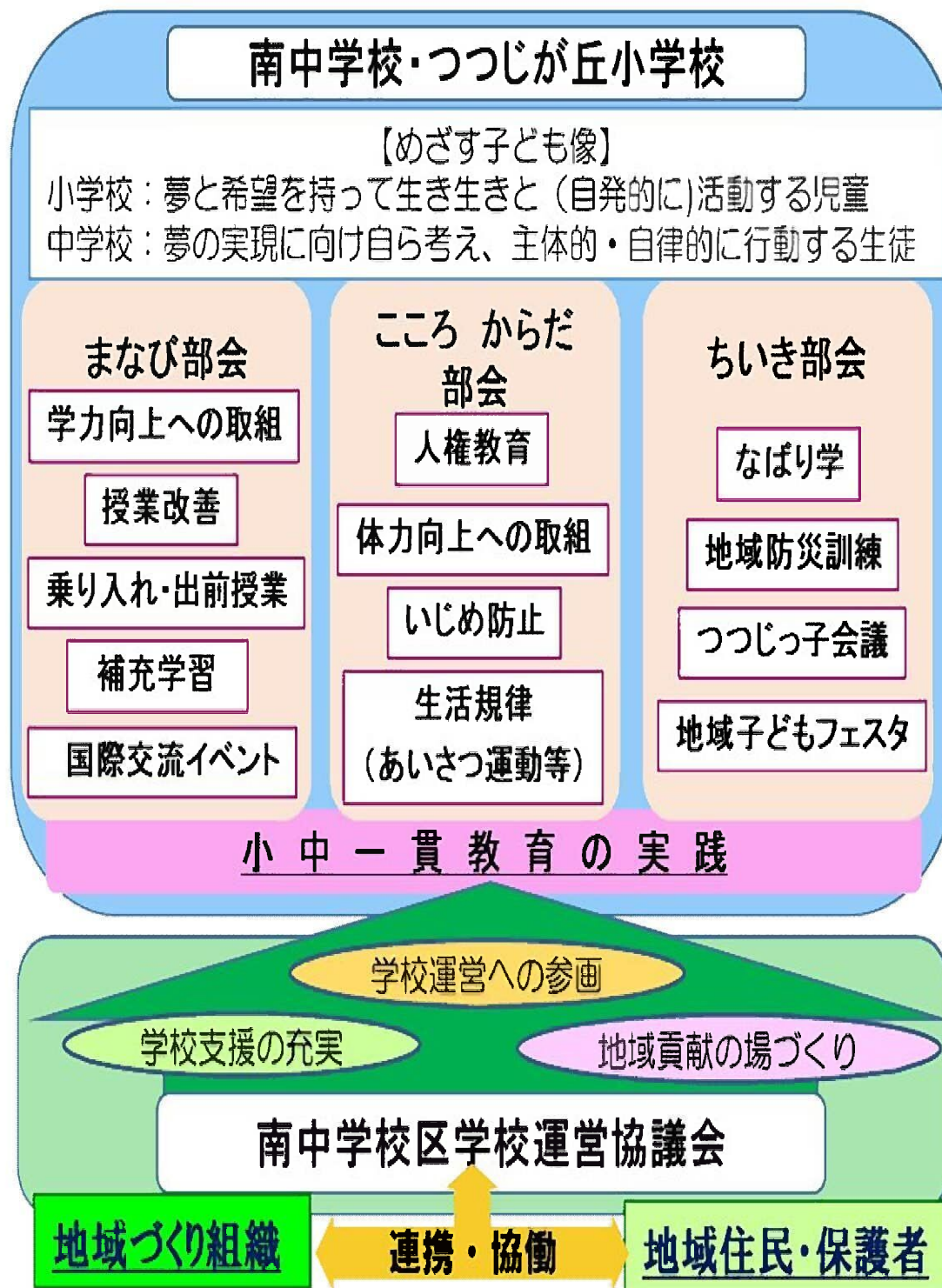
- ◇これまで、コロナ禍の影響を多少受け、活動を制限したり形を変えたりして、実施してきた行事もありましたが、今年度は学校運営協議会の会議も含めて、当初の計画通りに進めることができました。
- ◇コミュニティ・スクールとしての活動の一環として企画したプログラミング教室についても、昨年度に引き続き、本年度も近畿大学工業高等専門学校（以下、近代高専）の協力をいただきながら近大高専の教員や学生に小中学校に来校していただき、クラス別に実施することができました。小学校はスクラッチというソフトを中心に学び、中学校は Reality Composer を使用した AR（仮想現実）の作成について学びました。学習内容も小中がつながるような内容にすることができました。
- ◇つつじっ子会議では、今年度の取組の中心として、あいさつをテーマにあいさつがあふれる地域にしていこうと活動を進めました。2学期の終わりには、中学生が小学校に向き、小学生の運営委員会等のメンバーと一緒にあいさつ運動を実施することができました。
- ◇学校運営協議会委員による授業参観は、直接の児童・生徒の様子を見ることができ、学校での子どもたちの様子を理解していただく上で、大変有効であり、今後も継続していきたいと考えています。

【課題】

- ◆名張市総合防災訓練時に、自治連合会主催の地域防災訓練に、昨年より中学生が参加しており、本年度も中学生が参加する予定で計画し、事前指導を含め、計画的に準備を進めました。しかしながら、当日は雨天となり、屋外での活動を計画していた中学生は残念ながら活動中止となり、参加することができませんでした。小学生は自治連合会との協議により、地域防災訓練には参加せず、学校独自で避難訓練を実施しました。今後は、地域と小学校が連携した防災訓練のあり方等について、再度協議していく必要があります。

4. 学校運営協議会の組織図

南中学校区では小学校と中学校の教職員が4つの部会に分かれて、小中一貫教育を実施しています。学校運営協議会についても小学校と中学校の組織を一つにして、南中学校区として会議を開催しています。南中学校区学校運営協議会では、この小中一貫教育の内容について情報共有しながら、実践への参画・支援・場づくりを行っています。また、学校課題についても共有し、取組についてご意見をいただいています。



コミュニティ・スクールだより

第38号

名張市教育委員会事務局発行
令和5(2023)年 5月10日

充実したコミュニティ・スクールの 推進に向けて！



5月8日から新型コロナウイルス感染症の法律上の位置づけが2類相当から5類になり、学校生活に少しずつ変化が見られます。コミュニティ・スクール(以下、CS)の活動にも、コロナ禍以前の取組内容を参考に、積極的に取り組もうとする様子が感じられます。

今回は、「当事者意識」をはじめとして、充実したCSを推進するにあたり、大切にしたいことや地域学校協働活動についてまとめています。ぜひ、ご一読ください。

【当事者意識の醸成にむけて】



子どもに関わる全ての人が「当事者意識」を持つことの大切さについては、「コミュニティ・スクールだより」(以下、CSだより)第37号でもお伝えしました。CSに関わる取組を進める上で「解決すべき課題は何なのか」を共有した上で、解決に向けて共に知恵を絞って考え合うことが大切です。また、取組を進めるにあたって、何のために企画されているのかを一人ひとりが理解することも大切になります。そのためには、設定された会議だけではなく、平日頃からの何気ない会話を含めて、コミュニケーションの機会をしっかりと持つことが、何より重要です。

【明確で具体的な方向性を示す】



学校運営協議会(以下、協議会)では「学校経営計画」の承認のほか、子どもたちに関わる取組について、多くの協議がなされます。その際、学校の課題や目指す子どもの姿等について、具体的に伝えることがポイントです。例えば「いきいきとした子ども」を目指そうとしているのであれば、どのような姿が「いきいき」した姿なのか、具体的なイメージを話し合い、委員同士で共有することが大切です。協議会の開催時間は限られますので、資料の事前配付やスライドを使った説明等、事前準備を着実に進めておくこと、より理解が深まります。

【思いが通い合う協議会を目指して】

市内の複数の学校で、協議会にできるだけ多くの教員が参加できるように、開催時期や開始時刻を工夫する動きが見られることは、以前お伝えしたところです。複数回実施される協議会の内、いずれか1回でも、行事等の状況を考慮して夏季休業中に開催したり、開始時刻を放課後に設定したりすることで、より多くの教員が参加できるようになります。このような工夫をすることで、協議会委員と教員とが、顔が見える関係となり、良い結果が期待されます。

<期待されること>

- ・教員との距離感が近くなり、情報共有がしやすくなる。
- ・何気ない場面で見せる子どもたちの様子など、普段伝えきれない子どもたちの細かな様子や地域の者として感じること等を直接伝える事ができる。
- ・日頃、直接言葉を交わすことが少ない地域の方と話すことで、子どもたちへの思いを共有することができる。
- ・協議会委員の方に感謝の思いを直接伝えることができる。



【CSと地域学校協働活動】



協議会を設置している学校のことをCSといいますが、CSが将来に目指す姿とはどのようなか？ 現在、地域社会や学校において、多くの課題があります。その多くは、地域や学校だけでは解決が困難なものです。子どもたちや地域の輝く未来を創るためには、「社会総掛かり」

での対応、学校・家庭・地域による一体的な取組が必要ですが、その有効な仕組みの一つがCSです。合わせて、この「社会総掛かり」での対応の一つであり、学校と地域が一体となって子どもたちの成長を支えていく仕組みが、地域学校協働活動です。この地域学校協働活動についてはCSだより第35・36号でお知らせしましたが、CSと地域学校協働活動は車の両輪のように、相互に関わり支え合いながら、子どもたちの成長を支えていく仕組みです。市内全小中学校がCSとなって、本年11月で丸3年となります。昨年度には、CSカレンダーのほか、上記のような、新たな形での協議会の実施など、より充実したCSを目指して、新たな取組が進められています。次号では、このCSが創設された経緯や目的を改めて取り上げ確認することで、より充実した取組へつなげていきたいと思います。

YouTube配信延長中



去る2月10日に開催された「第2回 小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会」の様子をYouTubeを通じて、限定配信していますが、期間を延長して配信を継続しています。CSの必要性やその魅力、大切にしたい点など、文部科学省元CSマイスターの木本(このもと)さんが熱く語られています。職員研修でも活用していただける内容です。ぜひ、ご活用ください。

コミュニティ・スクールだより

第39号

名張市教育委員会事務局発行 令和5(2023)年10月5日

コミュニティ・スクールの目的を 共有して、より充実した取組へ！

【CSの目的とは…】



学校運営協議会(以下、学運協)を設置している学校のことをコミュニティ・スクール(以下、CS)といいますが、そもそもCSの目的とは何でしょうか？ 現在、学校や地域社会において、多くの課題があります。その多くは、それぞれ単独での解決が困難です。子どもたちや地域の輝く未来を創るためには、社会総掛かりでの対応、学校・家庭・地域による一体的な取組が必要です。その有効な仕組みの一つがCSです。市内全小中学校がCSとなって、本年11月で丸3年となる今だからこそ、改めて経緯や目的を再確認することで、より充実した取組へつなげていきましょう。

【当事者意識を育んでいくためには？】



学運協の取組はCSにおける牽引役、いわば車のエンジンにあたります。そのエンジンを動かす原動力の一つとなるのが当事者意識です。当事者意識は燃料のように消費されるわけではありませんが、最初からあるわけではなく、育み高めていく必要があります。当事者意識を育み高めていく手立てには次のようなことが考えられます。

- ① 必要性や意図を共通理解する
CSや学運協、学運協委員の必要性や意図について、共通理解を図る。
- ② 目指す方向を共有する
学校教育目標や育てたい子どもの姿等を、学校と家庭、地域の三者が共有する。
- ③ 情報を共有する
学校が把握している子どもの教育に関わる情報について、成果だけでなく課題も含めて、三者が共有する。
- ④ 思いを語り合う
①から③を基に、三者が熟議等を通じて語り合う。
- ⑤ 具体的な行動計画を立てる
手立てや手法、期限や担当等、具体的な行動計画を、短期や中期、長期の目標と合わせて考える。
- ⑥ 明確な役割を持つ
三者が役割分担をしながら責任を持って取り組む。
- ⑦ 点検・評価の実施
P(計画)D(実行)C(点検)A(評価)サイクルを回して、常に点検・評価を行い、次につなげる。

【「段取り八分」の実践】



事前準備の大切さを表す言葉に、「段取り八分、仕事二分」があります。前もってしっかりと段取り(準備)をしておけば、目的の80%は達成したという意味です。学運協はまさしく「段取り八分」です。例えば年間の取組の方向性を協議する際にも、会長をはじめとした委員や地域の方、教職員に対して、必要に応じて事前に資料提供したり、説明や打合せを十分に行うことで、課題がより明確になり、共通理解が進むことになります。また、会議当日を迎えるまでに、各委員が課題に対してしっかりと向き合うことができるようになります。これは、学運協に関わる人の当事者意識を高めることにもつながり、CSを充実させる基本となります。

【子どもたちの思いを学運協へ】



市内の複数の学校で、学運協の運営に子どもたちの思いを生かそうとする動きが見られます。錦生赤目小学校では、校区にある子どもたち自身が感じる課題について、児童が直接、学運協委員の皆さんに向けて伝える授業が実施されました。子どもたちは、授業に向けて、「錦生地区・赤目地区を盛り上げていくために、どんなことができるだろうか？」や「地域の皆さん(大人)に教えてほしいこと」をテーマに議論を重ね、当日を迎えました。課題や地域の方に取り組んでほしいことだけでなく、自分たちができることについても考え、伝えようとする場面も見られました。



また、赤目中学校では、生徒が学運協委員をはじめとする地域の方に対して、地域行事について提案する場が設けられました。地域で開かれる夏祭りに企画段階から参画し、実際の夏祭りにも主催者側として取り組むことにつながりました。

これらの取組に共通しているのは、子どもたちを「お客さん」として捉えていないことです。もちろん、提案の具体化には大人のサポートが必要になりますが、子どもたちが感じていること(課題や思い)を積極的に受け止め、学運協の運営に反映させています。

【小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会が開催されます】



10月13日(金)に小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会が開催されます。前半に山口県光市教育委員会の木本育夫さんから、CSや学運協の意図や意義について講演をいただく予定です。講演の様子については、今後、本たよりで紹介いたします。

コミュニティ・スクールだより

第40号

名張市教育委員会事務局発行
令和5（2023）年 10月31日

小中一貫コミュニティ・スクール 推進協議会開催！

【いま改めて考えたい、CSの意義や意図】



名張市小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会を、10月13日（金）に開催しました。前半を行政報告と講演会、後半を熟議という2部構成で実施し、行政報告では、小中一貫教育とコミュニティ・スクール（以下、CS）の名張市における現状等などについて報告しました。講演会では山口県から地域連携教育アドバイザーの本木育夫さんに講師としてお越しいただきました。本木さんからは、名張市内全小中学校がCSとなって4年目を迎えるにあたり、CSの意義や意図、学校運営協議会（以下、学運協）の役割等について、改めてお話いただきました。

【テーマ「これからの学校と地域」】

～CSと地域学校協働活動の一体的推進～



本木さんからは、CSと地域学校協働活動という、大きな2つのテーマについて、お話いただきました。以下、その内容の一部を紹介します。

<CSとこれまでの仕組みの違い>

法律に基づき、学運協の役割や権限が明確化されているため、家庭や地域等が学校だけに任せることなく、**学校運営の当事者として**、自立した学校と対等な立場で、継続して**学校運営に関わることができる**ことが大きな違いであり、意義となっている。

<CSの役割>

家庭や地域等が当事者として学校運営に参画し、めざすべき目標を共有し、その目標達成のための十分な協議をした上で、**学校と家庭、地域（以下、三者）が協働して取り組む。**

<CS運営のポイント>

- ・何より大切なのは三者のコミュニケーション
- ・CSは信頼関係や協働体制づくりのための制度であることを理解する
- ・学運協委員が役割を果たすためには、学校の仕組みやルールを学ぶ機会が必要
- ・家庭や地域の意見が届きやすい仕組みづくりを進める
- ・子どもたちの意見や考えを学運協に取り入れ、一緒に考える

- ・CSの取組等を分かりやすく発信する
- ・CSはあくまでも道具、大切なのは校長先生のビジョン
- ・教職員の異動に左右されない学校と地域の関係づくりを
- ・各学校により、子どもや地域等の現状や課題等は全く違う。各学校らしさが一番発揮できることを、できることから始める

【熟議より】…一部抜粋…

本木さんの講演を受けて、「充実した学校運営協議会にするために、大切にしなければならないことは何か」～それぞれの立場・視点から～というテーマで、3グループで熟議を行いました。出された意見の一部を紹介します。



- ・「三者が子どもの実態やめざす子ども像を共有する。」
- ・「学運協が子どもたちの思いを、さらに受け止めることができるようにする。」
- ・「三者をつなぐ役割が必要（地域学校協働活動推進員）」
- ・「自分たちが住む地域を子どもたちが好きになり、学校や地域のよさを子どもたちが自身が発信できるようになることをめざす。」
- ・「無理なく継続していくことが大切。」
- ・「地域学校協働活動カリキュラム（CSカレンダー）を学運協で位置付け、常にブラッシュアップする。」
- ・「CSの取組の様子等をもっと積極的に発信する。」
- ・「地域がめざす地域の姿を、学校でも共有する。」
- ・「学運協委員が気軽に集える部屋（CSルーム）があるといい。」
- ・「三者の相互理解が基本。学校は積極的に地域に出ていき、地域と触れ合う場を作ることが大切。」
- ・「学運協委員や教職員全体の当事者意識の向上が必要。」

【本木さんからのメッセージ】



- ・「一番大切なのは、**三者のつながりをつくること**。ぜひ、懇談会のような顔と顔が見える場の設定を！」
- ・「学校は家庭や地域から、様々な支援をいただいていることを認識する。」
- ・「子どもの思いを、活動したその場で確認（聞く）して次につなげる。」
- ・「時間と場所をはっきり示して、学運協委員が来校しやすくする。」

【西山教育長からのメッセージ】



「CS4年目を迎えるにあたり、自分たちは子どもたちのために何ができ、地域とともにどのような実践ができていたのか、また学校はいかに成長できたのか、そして子どもたちの成長に繋げることができていたのか、振り返ることが重要。」

YouTube限定配信



協議会の様子はYouTubeを通じて、教職員及びCSに関わる皆様を対象として、**限定配信**します。詳細は別途、お知らせいたします。ぜひ、ご覧ください！

コミュニティ・スクールだより

第41号

名張市教育委員会事務局発行
令和5（2023）年11月15日

コミュニティ・スクールと 地域学校協働活動の一体的推進



10月13日（金）に開かれた小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会では、山口県よりお越しいただいた地域連携教育アドバイザーの本木育夫さんにご講演いただきました。本日よりでは、前回に引き続き、講演の内容をお伝えします。今回は、地域学校協働活動と体験活動についてお話ししたい一部をお伝えします。

<地域学校協働活動とは>

幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」をめざして、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動。（社会教育法第5条第2項）

<地域学校協働活動の推進による効果>

それぞれの地域の未来を担う子どもたちが、地域の方々に見守られ、支えられながら、豊かな学びや体験の機会を得て健やかに成長していくことは、地域に愛着を持ち、地域に貢献したいと考える人事の育成につながる。

そのためには・・・

- ・学校と地域、家庭（以下、三者）が「**共通の願い**」を持つことが大切
- ・教職員の異動に影響を受けにくいように、地域を加えた**持続可能な仕組みづくり**が必要

活動のポイント

- ・「めざす子ども像」等を共有し、**同じねらいで活動**する
- ・「どのようなことを子どもたちに体験させるべきか」を**三者で考え合う**
- ・「どのような声掛けをするべきか」を**三者で共有する**

大人の意識も高まり、子どもたちの生き生きとした姿につながり、地域の繋がりが深まる

【各校の取組紹介】

本号より、コミュニティ・スクールに関わる市内各校の特徴的な取組を紹介していきます。今回のテーマは「居場所づくり」で、名張中学校、薦原小学校、箕曲小学校の3校の取組を紹介いたします。



【生徒の思いに寄り添う場所「寺子屋∞（インフィニティ）」と「寺子屋」】…名張中学校…



「何だかモヤモヤする」「友だちと喧嘩をしてしまった」「勉強が分からない」など、しばしば、子どもたちは戸惑い、教室に入りにくくなったり、登校しにくくなったりすることがあります。そんな時、「気軽に誰かと話せたり、勉強したりできる場所があれば、一歩前に進むことにつながるのではないだろうか」という学校運営協議会（以下、学運協）委員の皆さんの思いから、本年度は生徒への心理的なサポートを中心とした「寺子屋∞（インフィニティ）」と、学習支援をねらいとした「寺子屋」として、新たなスタートを切っています。2つの取組とも、子どもたちの話に耳を傾けるのは、学運協委員やボランティアの皆さんです。実施にあたり、委員やボランティアの皆さんには、研修の機会を設けました。研修では、さくら教室（教育支援センター）から講師の先生を招き、子どもたちのありのままを受け止めることや傾聴の大切さについて学びました。



【地域と一体となった居場所づくり】…薦原小学校…



夏休みなど、長期休業中の子どもたちの居場所が課題となっています。現在、各種の放課後子ども教室や放課後児童クラブ（学童保育）がありますが、今年の夏休みに薦原小学校では、学運協が中心となって新たな取組「寺子屋こもはら小学生版」が立ち上がりました。さつき台集会所と薦原市民センターの2か所を会場に、それぞれ2日間ずつ（計4日間）、午前8時30分～11時30分まで開催されました。いずれの日も、活動時間の前半は夏休みの宿題を中心とした学習活動、後半はもの作り活動が設定されました。毎回多くの子どもたちが参加し、保護者の方からも大変好評で、「ぜひ来年も開催してほしい」との声をいただいています。

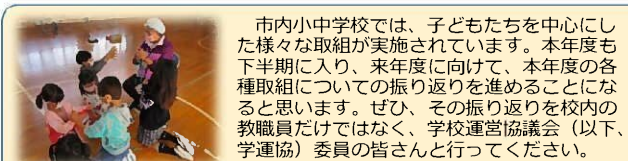


【高校生も参加した居場所づくり】…箕曲小学校…



夏休みに箕曲小学校の図書館を活用し、地元高校と協働した取組が行われました。一つは名張高校漫画研究部の皆さんを講師として招き、2日間に渡って実施された、イラスト教室です。初日はキャラクターづくり、2日目はタブレット端末のお絵描きアプリを活用したイラスト教室が開かれました。また、もう一つの取組では、名張青峰高校ESS部の皆さんを講師として招き、英語の歌やゲームを子どもたちと一緒に楽しみました。二つの取組とも、高校生も小学生も最初は戸惑いも見られましたが、すぐに慣れることができ、楽しい時間を過ごすことができました。小学生からは「来年も、来てほしい。」との声が聞かれました。

次年度へ向けて 各種取組の成果と改善点の確認を



<具体的な振り返りの視点>

- ・目的やねらいは達成できたか
- ・取組の際の子どもたちや大人を含めた周囲の様子について
- ・取組後の子どもたちの変化について（どのような力がついてきたのか）
- ・取組に関わった人はどのように感じたのか（感想や自らの変化）

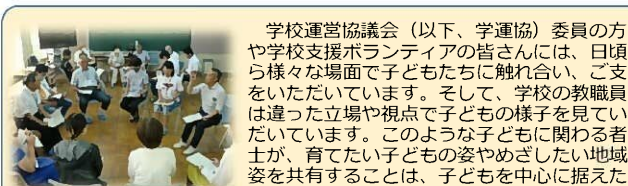
↓ 振り返りをすることで

- ・取組に関わった人へ承認感や安心感、成就感を与えることができる
- ・来年度に向けて、実施の可否や実施方法の検討につながる
- ・学運協委員の当事者意識につながる

	4月	5月	6月
学校	授業参観 学級懇談会 (4/22)	田植え(5/9) 遠足(5/17) 二つ二つ週間 (5/9～5/14) クラブ活動 (5/27) 運動会(5/28)	クラブ活動 (6/20) 全校集会 (6/22) 学校運営協議会 (6/1) ボランティア交流会 (6/9)
保護 者	PTA総会 (4/22) 登下校支援	運動会(5/28) 田植え(5/9)	交通安全教室 (6/9)
地域	ゲストティー チャー(〇〇さ ん)4/27 《祝》 登下校支援	田植え(5/9) 遠足(5/17) ゲストティー チャー(〇〇さ ん)5/29 読み聞かせ	プール清掃(6/4) 機ハウス 草刈り (6/4・19)

学運協の際に、CSカレンダーなど、年間計画表を活用して振り返りを進めることも有効です。実施した取組について、積極的に意見を出し合うことで成果を確認する。併せて、次年度に向けて、継続、発展、拡大または縮小、廃止、変更等の改善点を考え、知恵を出し合うことがポイントです。

学校運営協議会委員と教職員との コミュニケーションの場の確保



学校運営協議会（以下、学運協）委員の方や学校支援ボランティアの皆さんには、日頃から様々な場面で子どもたちに触れ合い、ご支援をいただいています。そして、学校の教職員とは違った立場や視点で子ども様を見ていただいています。このような子どもに関わる者同士が、育てたい子どもの姿やめざしたい地域の姿を共有することは、子どもを中心に据えた取組を行う際の方向性をそろえることにつながります。

【コミュニケーションの場の工夫】

学運協委員と教職員、全員が参加する方法もありますが、一部の教職員が参加するなど、様々な方法が考えられます。大切なことは、互いに情報共有ができる機会を持つことであり、無理のない範囲で始めていくことがポイントです。

コミュニケーションの場の設定（例）

長期休業中に設定

学期中に比べて教職員に時間の余裕があるので、ゆとりを持って語り合える。話し合った内容によっては、休業中に取り組むことが可能である。

学期中に設定

教職員は授業終了後の参加となるため、時間的に制約を受けるが、授業参観と同日開催することができ、子どもたちの様子を基に話ができる。

複数回に分けて設定

学年や経験年数等、グループ毎に日を変えて場を設定することで、テーマを絞り込むことができる。



【各校の取組紹介】

11月18日（土）に実施された名張市総合防災訓練（以下、訓練）では、地域と学校が連携した取組が複数の学校で実施されました。以下、訓練の様子を紹介します。

【防災意識を高める活動】… 桔梗が丘中学校 …

桔梗が丘中学校区では、地区毎に訓練が工夫され、特色ある取組が実施されています。桔梗が丘市民センターでは、地域の元消防職員の方を講師に迎え、防災意識を高めるための講話とロープの結索訓練が行われました。まず、ナイロンや麻など、素材によるロープの特性の違いや、取り扱い上での注意点について説明を聞いた後、基本的なロープの結び方を教えていただきました。慣れないロープさばきに、子どもたちは最初こそ戸惑いも見られましたが、コツをつかむと子ども同士で教え合う様子が見られました。また、別の地区では、まず集会所に集合し、DVDを使った防災教育を受講後、小グループに分かれて、災害時の安否確認訓練に参加しました。安否を示す印としての各戸の玄関ドアにつるされたタオルの掲出状況を、一軒ずつ確認して回りました。地域の方からは、熱心に訓練に参加する中学生の姿に感心する声や、実際に災害が発生した時を想定して、中学生に支援者としての活動を期待する声、防災に対する意識を高めていくためにも、防災訓練を繰り返していくことが大切だなどの声が聞かれました。

【災害に対する備えを学ぶ取組】… 美旗小学校 …

市内小中学校の全てが、市指定避難所となっています。美旗小学校では、子どもたちが実際に簡易トイレに座ってみたい、簡易担架の作成や負傷者の搬送、防災テントの設営体験等をしたりとすることを通じて、避難所となった際にどのような活動が実施されるのかについて知る機会が設けられました。また、普段見ることが少ない防災倉庫に、どのようなものが備えられているかについて、展示を通じて知る機会が設けられました。このような活動を通じて、小学校の子どもたちが自分たちのできることをやるべき行動について、考えるきっかけとなりました。

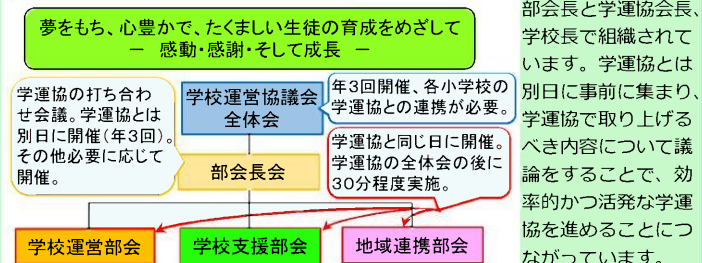
【各校の学校運営協議会について】

学運協はコミュニティ・スクール（以下、CS）を推進するために、委員が知恵を出し合い議論することを通じて、推進の方向性や具体的取組を検討します。いわばCSのエンジンにあたります。市内小中学校の学運協には、部会制を取り入れている学校が数校あります。部会制で学運協を進めることにも、部会制を取らずに学運協一つで進めることにも、それぞれ望ましい効果があると考えられます。以下、一例を紹介いたします。

【より実働的で持続可能な組織をめざして】… 北中学校 …

北中学校では、学運協に三部会制を導入しています。3つの部会を設置することで、各部会が責任を持って、取り組む具体的な内容を検討し、推進することにつながっています。また、3つの部会が同じ方向に向かって進むことができるように、部会間の情報共有や懸案事項の協議を行うために、部会長会を設置しています。

北中学校 コミュニティ・スクール組織図



【全員参加型で充実した議論を】… 名張小学校 …

名張小学校では昨年度まで、部会制で学運協を運営していました。多くの懸案事項に対して、実質的に学運協が全体で協議をし、委員が意見や知恵を随時出し合い協議が進められてきたことを受けて、本年度から、部会制を取りやめて運営しています。委員一人ひとりが、「この課題を解決するためには、どうすればいいか」「自分にできることは何か」など、高い当事者意識を持って取り組んでおり、学運協は、まさしく「協議会」として機能しています。もちろん、議題に応じて、学校長と学運協会長をはじめとする委員との事前打合せを適宜行うなど、入念な事前準備が行われています。